

# MUTAN

ウータン

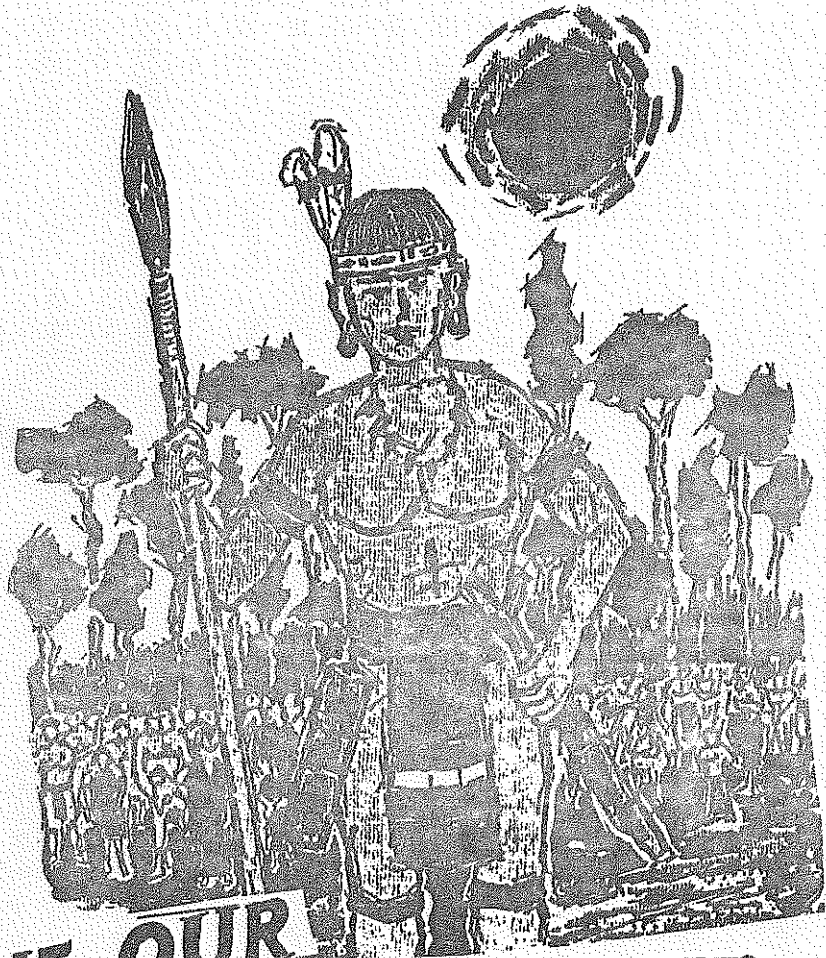
No.1

1988・6・29

大阪市北区中崎西1-6-36 サクラビル新館308

「自然をかえせ！関西市民連合」事務所気付

“森と生活を考える会”



SAVE OUR  
FOREST

SAHBAT ALAM MALAYSIA ㊤



# 山は誰のもの

はた やすのり



ナコンラチヤシマを出てから、もう幾つ目の駅になるのだろうか。どの駅に汽車が止まっても、積み上げられた巨木が視界をきこざる。イサーン(タイの東北地方)のどの辺りから運ばれて来て何処の園へ積み出されていくのか……

それを見てもまた抱えはありそうだから、懐念にして「百年は経していると思われるのに、人間は、いとも簡単に切り倒してしまふものだ。」

タイに心を惹かれて旅を続けるとき、タイ文学の日本語訳は、欠かせないものになつてしまつた。

「川は魚のもの、空は鳥のもの、山はメオ族のもの」

山岳民族メオの物語の中で、よく目につく言葉だ。少しずつでも彼等の生活様式が分つてくると、それ迄の自然環境に対するイメージションが細らいでしまふ。

日本を始めとする先進國の経済侵略がゆたかな熱帯林を焼き倒してしまつたのと、文明を拒否して固有の生活文化を守り、焼畑農耕に生きる人達とのそれでは、懸念を比較することのできないのではないか。

今年の四月に、北部タイの中心都市チェンマイから更に二百回はなれた、タートンの近くの山に焼畑を見に行った。

ドイ・チェンタオで、農作業に荷を出す若いメオ族の夫婦に出会つた。男が一人、女が二人、合計三人のメオが、黙々と大地に鉄を打ちつけていた。七、八

才ぐらいの女の子が柔らかな土の中へ手を押しこむようにして種を蒔く。鳥の鳴き声のほかは、三人の振りむらす鉄の音だけという静けさだった。

読んで知り得た言葉を此処でも聞いた。「メオの俺たちは、鉄のほかは何も持っていない。メオは、山で暮らしているから暮つてるんだ。」……と。

鈴木 千里



「ウータン」が発足した。この会をつくらうといひだした人、これが開わつていつとすると人達、きつと、様々な思いをもつた人達が集まつてくる。森林問題と一口ではいつもの、賛否両論いろいろな立場から考え、話しあわなければならぬと思ふ……。そつした、様々な、思いをいろんな人と、話し合いたい、いろいろな立場の問題を自分自身で学んでみたい、考へてみたい。ほらほら、じつくり取りくんてみたい。



「ウータンに思うこと」

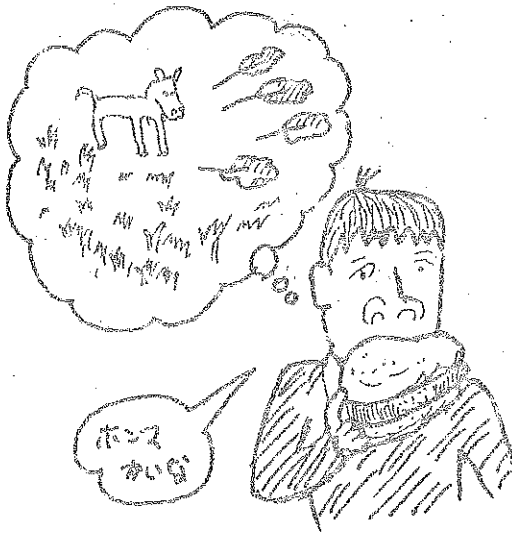
鉄道と農業の復権から日本を  
住み良くする会

森本博行

今年（、88年）1月31日の「森をみつめる会」の時をきっかけに、くしくも四国の伊方原発で危険な出力調整試験が反対を押し切って強行された2月12日に、この「ウータン」の最初の活動が始まったのでした。当初「サラワク・マレーシア交流会」熱帯セクシヨンということで、女性3人で始めた会であり、当会としても アジアの国々の木を切るのをやめて、日本の森林資源を大切にしていこうことは、林業の活性化につながり、それは農業の復権にも関連し、過疎と過密の緩和になります。そして地方の人口の増加は、ローカル線・地方鉄道の利用客の増加をもたらし、鉄道の復権にもつながることから、係わることになってしまいました。

「ウータン」については、森林の問題を国際的に考えていくことに意義があり、

この問題は、前記のように日本の林業とも関連してくるわけで、副題の「森と生活を考える会」としても、アジアに限らず、日本の、そして世界の「森と生活」が考えていければと思います。



### ハンバーガー

運動を始めた。ハンバーガーファースト・フードの代表格ハンバーガーと、動物の肉が原料となるハンバーガーの肉を林の間に近づけようとする。中米米に於ける動物性蛋白質の不足の原因の一つが牧畜。米國農家が豊かな森林を切り開いて放牧する。そこで生産される安い牛肉がハンバーガーの材料として米國をはじめ世界中の若者の胃袋にはいっていき、という図式だ。



中米コスタリカ 農林専門家は「北米向けに安い牛肉を供給するため、中米の森林の三分の二は破壊された」と指摘。欧州の環境保護団体によると「アマソンの密林の四〇％は牧畜向けに伐採され、日本、西アフリカなどの企業がこれに関与しているという。このハンバーガーと熱帯の森林の関係を自づつと米國の市民団体が、ユニークな

受け入れて国内産のポプラに切り替えた。

日本ハンバーグ・ハンバーガー協会は「企業秘密」を文字に肉の輸入量の問い合わせに「ノーコメント。水産によると農林産が多い」というが、ハンバーガーをばくち日本の若者のたちも、たまには地球の緑と「コネクション」(結合)に思いをはせてみては？(五)

ウータン

# 森と生活を考える会 “HUTAN”

(“Hutan”とは、マレーシア語で“森”の意味)

## みなさんへのよびかけ

……このまま 森林破壊が進めば、20年足らずで、地球上から熱帯雨林は、消滅してしまい……  
 熱帯雨林破壊の問題が 各地で訴えられ、マスコミも関心を示すようになり、個人レベルで、  
 または、グループレベルで、実に沢山の人が 現在の事態に真剣に取り組んでいます。  
 しかし、実際にそうした、活発な活動を続けていらっしゃる団体からの呼びかけに対して、何等かの  
 刺激を受けながらも、多くの場合、私達の思いは、“一体、どうしたらいいのか？何ができるのか？  
 問題が難し過ぎてどうとらえていいかわからない。”という点で足踏みしているのではないのでしょうか。

この思いを何とか形のあるものしようと一歩踏み出したのが“森と生活を考える会”です。

……現在 行われている大規模な 熱帯雨林破壊は、地球上の生態系を崩壊させ、

森の中に生きる先住少数民族は、生活の場を守るために悲痛な訴えを続けて  
 いる。 ぼうして、伐採された大部分の木材の終着地は、日本。海を渡って  
 運ばれてきた原木は、見事に形を変え私達の生活の中にある。……

私達の多くは、まだこのよつのつながりに気付いていないのではないのでしょうか。

私達 一人一人が、この2つの発着点と終着点を一つの線につなぐ意識をもち、  
 この問題を 隔れた国の他人ごとではなく、自分自身が関わっている問題として  
 とらえることができれば、きっと解決策が見えてくると思うのです。

私達と一緒に、この二つの点“森と私達の生活”を通して 現在の熱帯雨林問題を  
考えていきましょう、語り合ひましょう。

どうか、私達のよびかけに対し御意見、御協力戴きますようお願い致します。

～森と生活を考える会 よびかけ人一同

つきましては、6月29日(水)より “よびかけの会”を兼ね、公開勉強会を  
 計画しておりますので御参加ください。(裏面参照下さい)

“Hutan” 森と生活を考える会

連絡先：大阪市北区中崎西1-6-36

「自然をかえせ！関西市民連合」事務所気付

“森と生活を考える会”

TEL. 06-301-0154 (ノバラギ・牛島美成子) 一昼間

TEL. 0727-28-3660 (鈴木 千里) 一夜间

\*PH: 10:00 までにお願ひします\*



# 切りくずされるジャングルで

——八八年四月、サラワクから——

西岡良夫

《伐採が続くバラム川上流へ》

高層住宅が並ぶクアラルンプールから約3時間半、飛行機はボルネオ・サラワク州のミリに着く。緩い風が吹くが、汗が止らぬ暑さだ。

クチンからミリまでの海沿いのマングローブはこっそりとなくなり、緑の連続が剥ぎとられていた。十年ほど前にミリからクチンまで結ぶ道路が出来て、今、奥地への開発がどんどん進むという。至るところで自動車やバイクが氾濫して、まちは近代化が行なわれている。想像していた『秘境』ボルネオではない。僕は一路、目的地のマルデイへと飛ぶ。

森林の間を縫う伐採道路が幾つも幾つ

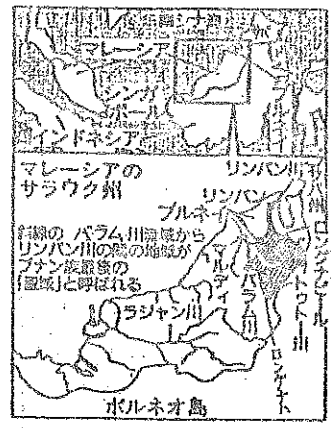
も見えて、あちこちの大地から赤土がむきだす。立枯れの木の横を、タグボートが百本以上の木材をバラム川河口へひっぱっていく。小型飛行機内はクリスチャン、中国人、商社員など。午後四時、マルデイ着。

地球の友(S.A.M)事務所が警察に盗聴されているかもしれないと思いつつ、こわごわ電話をかける。それは昨年三月より七か月間、プナンやケラピッツ族などの先住民の人々が伐採道路にバリケードを張った後、事務局のH・ガウ氏が不当逮捕されたから詳しい情報が入らなかつたからだ。だが、うまく電話連絡でき、明日にガウ氏やペナンのC.A.Pのメンバー

が山から事務所へ来ることが判った。ガウ氏は無事で頑張っているのだ。

マルデイの町でも車が走っており、商店はみな華僑だ。人々に聞くと、最初に買った車は二十年ぐらい前だと、自動車や船のエンジンは日本製で、商店の経営者は「ジャパン・イズ・グッド」と僕を見て笑顔をふり向ける。

四月二十六日、S.A.M事務所へH氏と行く。彼は「至る所で伐採されている。これはマルデイ周辺のみでない。私の住んでいるロング・ナビールなどリンパン川流域では、森林が切り尽くされつつある。土地を追われ、魚が棲みにくい川にされ、獣や果物も減ったから、我々の仲間は生



活を守るためにバリケードを張ったのだ  
と。

一九七四年、サラワク州はプレイウツ  
ド社、T W K社、リンバン・トレイディ  
ング社（伊藤忠と合資）などに約二三万  
エーカーもの土地の伐採権を与えた。そ  
の後、サラワク州はロング・ミリ周辺の  
土地（UNIT 7、8、各一三万エーカ  
ー）の土地に対して、プレイウツド、パ  
タ・テインバー、マウント・ガーデン社  
などに伐採権を与えた。先住民が所有権  
を知らないことを利用して、伐採権を得  
たのは華僑、金持ちのマレーシア人、そ  
して日本との合弁企業だ。

日本は戦前より南洋材の輸入を行なっ  
ているが、一九六〇年頃より飛躍的に増  
加量が増えた。フィリピン、タイ、イン  
ドネシア、サバ州で伐採した木材をどん  
どん輸入した。フィリピンの山が禿げて  
しまえば、次ぎはインドネシアへ、そし  
てインドネシアで丸太輸出禁止になると、  
サバで大規模な伐採を行う。商社が仲介  
して、アジアの熱帯林はことごとく切り  
倒されている。その裏で、日本が経済成

長をとげてきたのは言うまでもない。現  
在、サラワク、サバ州から日本への輸入  
が九〇%にもものぼる。だが、サバ州での  
商品用木材はあと五年しかないと言われ  
る。そうなれば、ますますサラワクでの  
伐採が増えるだろう。

一日、二日歩き廻ってやっと見つけら  
れる果物。サラワクでは狩猟民の糧とな  
った獣は、伐採道路が奥地まで延びたた  
めに逃げていつていると言う。焼畑も自  
由に出来ず、今では彼らが使える土地は  
ほんの僅かだ。森や大地は彼らの手から  
離れ、華僑などに囲われてしまった。

「伐採道路は奥のジャングルへどんど  
ん作られていつている。生活を守るため  
にバリケードを行ったが、今は山に多く  
軍や警察がいるため、同行すればあなた  
も逮捕されるかもしれない」と。H氏が  
いうように人権弾圧もひどくなってい  
のだ。

次ぎの朝、エクスプレス・ボートに乗  
るが、雪が厚く濃い、奥の天気が気にか  
かる。ロング・タマラまでの川沿いは  
灌木が多く、二次林や三次林、そして

植林が続く。ロング・タマラを越えてか  
ら木材搬出地があちこちに見られる。小  
さな村も木材搬出地になって、石油タン  
クが並ぶ村もある。どの村からも伐採路  
が延び、想像していた原生林はどこへい  
ったのだろうか。船は小さな村藩に着く  
たびに、コンロ、ラジオ、石油缶、野菜  
などを下ろしていく。

### 《プナン族古老の叫び》

ロング・ミリを越えて原生林が遠くに  
見えだした頃から、今まで息を殺してい  
た雲は森の奥を覆い始める。ロング・ラ  
マで乗り替えた船でS A M事務所にい  
たプナン族の人々に、偶然出会った。  
夕暮れが近づいて、肌を刺す川面の風。  
プナンの人が身ぶりで寒さを示したので、  
僕は紅茶を沸かす。若いプナンは寒さの  
ためか熱い紅茶を恐る恐る飲むが、古老  
のプナンはそのような物いらなさと頑強  
に断わる。この文明を頑固に拒むことこ  
そ、先住民のくらしと闘いを支えている  
かもしれないと、僕は秘かにすくわれた  
気持ちになった。

ロング・ナハの手前で降りて、UNIT 8の伐採地へ向かう。至る所に木材が転がされていて、起重機の鈍い音が森の中へ響きわたる。ツナン族に原地番と英語とを通訳してくれたA君の車に乗せてもらい、急坂を登っていく。伐採道路の幅員は一〇m以上。道路の横の林はそのままの所もあるが、殆どの原生林の斜面が薙ぎ倒されている。伐採された森と、谷へ土砂を落とす道路が上部へと続く。鳥たちは林の間でさえずるけれど、一度人間の姿を見れば、すぐに逃げて行く。僕は途中で車を下ろしてもらい歩き続け、「これが秘境か」と暗闇の中で思う。

風はなま暖かく、森を包む。木材会社の灯りが見えたので、手前でテントを張る。さらに奥へ行けば、日本人の管理者と会う恐れがあった。カメラを没収されるかもしれないから、そこにテントを張ったものの、バケツの水をひっくり返したような雨が降り始めた。やはり、熱帯雨林の中にあるのだろうか。昨日とめてもらった木材会社のロングハウスからは、何百本という材木が朝霧

の中に見える。周りの原生林は薙ぎ倒され、伐採道路は森の上へと続いていた。伐採どころか皆伐方式で切られ、荒れ放題の山々。

警報などに通報されてはたまらないから、薄明かりの山を急いで下る。河原の側の伐採地でも、先住民の若者たちが雇われ、働いていた。本来、この山に自然と先住民たちが暮らしていたが、今は、サラワク州政府や華僑等に大地を取り上げられて、止めどもなく伐採が続く。伐採を行うために文明が奥深くはいったのか、それとも森を失って生活が出来なくなったのだろうか、若者たちの多くが伐採事業にたずさわっている。

茶色く濁るバラム川を下るが、ボートに乗ってくる若者のほとんどが時計を持っている。中にはアロハンヤンにサンングラスをかけた先住民の若者。ラジオやバイクを求めてまちへ、街へと向かう。彼らは、古来の先住民たちがバリケードを張ったことも知らないという。

帰国してから、五月一四日にサラワク

のリンパン川流域で、再度バリケードを張ったという知らせが入る。逮捕覚悟の行動だ。リンパン川へ戻ったH氏らの安否と、闘いが気になる。

二七日、サラワク州の高官がリンパン川流域に来て、高官は伐採業者に一時中止を話すと先住民に言ったらしく、人々は逮捕者を出さずにバリケードをといた。しかし、州政府は「八〇〇haの土地を与える。そこで農耕を行え」という条件を出したらしい。そうならば、先住民たちは自由に狩猟や焼畑を行えなくなる。

太陽は生命を産み、雨と森はそれを育んできた。風は草と獣と人々との対話をもたらせ、大地は駆け巡るものたちのものであった。

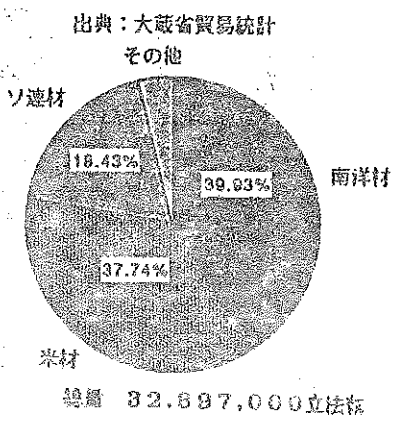




だが、これらの自然は生きものや先住民の手にはない。そればかりか、文明は秘境の畏敬や恐怖を加速度的に襲い始め、今の経済社会は自然も生も死も物の対象としてのみ、扱うようになってしまった。

「山は我々が狩猟する所でもあった。森に行けば獣がいて、果物もあった。だが、伐採が続いて、我々の生活は変わってしまった。もとの森に戻ることは出来ないだろう。山も森も水も我々のものではないが、サラワク州や伐採する業者のものでもない」と、船の中で言ったプアン族の古者の叫びが、またパラム川に響むられようとしているのだろうか。

日本の外材内訳 (1984)



★世界の森林面積 (FAOの推定より)

1960年頃 約50億ha (地球の1/4)

1980年 約29億ha (地球の1/4)

1年間2000万haの伐採、アジアで年1800ha

日本の南洋材輸入の割合

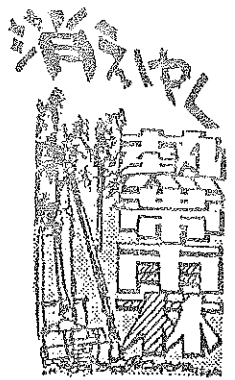
★日本の消費量 約1470万m<sup>3</sup>

アジア 約300万m<sup>3</sup>

全ヨーロッパ 約1180万m<sup>3</sup>

(1984年)

年別	国 別						
	南洋材の 総輸入量	フィリピン	サバ	サラワ	輪 マレー	インドネシア	その他
1965	9,506	40.5%	30.2%	4.9%	0.2%	2.0%	0.2%
70	20,237	57.3	19.5	9.3	0.9	30.1	2.9
75	17,533	16.4	34.4	4.1	—	42.1	3.0
76	22,173	7.6	38.3	7.9	0.0	43.5	2.7
77	20,947	7.2	38.8	7.1	0.0	44.3	2.6
78	21,799	7.1	42.3	6.9	0.0	41.2	2.5
79	22,082	5.7	37.1	10.3	—	44.3	2.6
80	18,956	5.6	33.3	11.9	0.1	45.6	3.5
81	14,728	9.6	37.2	12.8	—	28.1	5.3
82	15,121	8.7	42.6	24.8	—	16.2	5.7
83	13,879	4.7	44.9	29.4	—	15.2	5.8
84	12,943	7.2	42.3	32.9	—	10.3	7.3
85	13,001	3.9	45.3	41.5	—	1.0	8.2
86	12,130	2.2	49.6	39.4	0.1	—	8.7
1986年の 輸入量	12,130	264	6,018	4778	13	0	1057



木材伐採キャンプのブロッケードを再開した原住民たちが、サラワク州政府により、本日までにパリケードを取り去るよう命令されていたことが明らかになった。ロングナビルから来た女性子供を含む約百五十名のケラビット族の人々が禁止令に反抗してサラワク州ウル・セタン地域の二箇所の伐採キャンプでブロッケードをしたのだ。ある森林省筋の話では、その命令はブロッケードを行なわれた三日後、先週の土曜日に現住民に出されたらしい。

しかし、この法が許可される以前すでにミリヤリンバン地区では、一九八七年三月に始まったブロッケードが警察に取り除かれた。四十二名のカヤン族が逮捕され、裁判にかけられた。それが十月に審理される。両地域の多くの罾所で伐採を再び行なうため、道路を舗装するという法が修正案に認められてから残りのブロッケードはすべて取り払われた。昨年の伐採反対運動中、一時は、リンバン地区のウルセトウアンでの一箇所を含んで少なくとも十二箇所でブロッケードを行なったこともある。今週、同じ地域で同じ人々がブロッケードを行なったらしい。ウル・セトウアンでのブロッケードは、WTK社やリンバントレーディングなどの伐採企業の活動を阻止している。WTK社によるとプオン族の行なっているブロッケード地は、伐採現場からわず

政府役人、ブロッケード再開の現住民に最終通告を発令

その地域からの一切の車の出入りを阻止しているらしい。まだ二カ月分のディーゼルの燃料があるので今のところは、伐採は続けられが、伐採した木を運ぶことはできないでいる。WTK社の筋が明らかにしたところによると、森林省からの保言は、事件の解決は会社の責任であるようにと通告してきたらしい。保言たちは、原住民に一週間以内に立ち退くようにと期限を出した。「今、我々ができることは、待つだけだ。」とWTK社は言っている。一方、リンバントレーディング社は、原住民がブロッケード再開したことについて否定している。

マレーシア先住民を犠牲にする森林破壊、人権抑圧、  
そして木材輸入の停止を求める要請

現在、ボルネオのサバ、サラワク州において集中的に行われている森林伐採により、ブナン族をはじめとする多くの先住民社会が、その生存と文化の存続の危機に直面している。

日本の熱帯林貿易は世界の貿易の5割以上を占め、その9割以上がサバ、サラワク両州からの輸入である。これより以前、日本はフィリピン、インドネシアより集中的にラワン材などの木材を輸入し、とりわけフィリピン各地では禿山化するなど森林の破壊が顕著である。

大商社や合板メーカーらの、直接伐採事業への投資や現地企業への融資及び機械の貸与などが行われてきたことから、これらの森林荒廃に対する日本の責任は大きい。

今日、熱帯林伐採の中心地であるサラワクでは、先住民が何年も前から伐採業者や州政府に苦情を申し立てていたが、それが州政府などに無視され続けたため、昨年春から7ヶ月間、リンバン、バラム川上流部で先住民は道路封鎖を行った。これに対し、州は反対住民を逮捕し、伐採反対運動を取り締まる法律を作るなど、先住民を弾圧する姿勢をとっている。

また一方、日本の商社、木材業界や林野庁らは、くり返し森林破壊の原因を現地の焼畑民らに押しつける無責任な態度をとり続けてきた。

サラワク州の興地に住む先住民は、この5月より再び道路封鎖を始めたと伝えられている。これは逮捕覚悟の捨て身の抵抗であると考えられる。

私達は、日本政府及び木材業界、商社に対し、これ以上の森林破壊と先住民の人権抑圧をやめるよう、そしてサラワクからの木材輸入を停止するよう強く求めるものである。

1988年5月6日

全国自然保護連合

提案 { 熱帯林行動ネットワーク (東京)  
ウータン—森と生活を考える会 (大阪)  
日本環境保護国際交流会 (京都)

～森と生活を考える会～  
“HUTAN”公開勉強会へのお誘い

6月29日(水) 6:30～8:30

“88'4月・サラワクからの報告”

～山も森もサラワク州政府や伐採業者のものではない～

発題：西岡 良夫氏

場所：YMCA国際奉仕センター

7月13日(水) 6:30～8:30

1) “サラワクの人々の抵抗”(ビデオ)

2) タイ、フィリピンの現状

発題：谷口 栄一氏/西岡 良夫氏

場所：YMCA国際奉仕センター

7月27日(水) 6:30～8:30

“日本で使われている南洋材とそのルート”

発題：牛島美成子氏/浦本知明氏

場所：森の宮 市立労働会館

\*\*\*\*\*

8月24日(水) 6:30～8:30

9月 7日(水) 6:30～8:30

場所：YMCA国際奉仕センター

“一昔前のサバ州では～”(仮題)

“バブアニューギニアでは～”(仮題)

発題：田中 淳夫 氏

宮武 進 氏 をお招きする予定です。

9月23日(金) PM1:00～4:00

“生活の中の木材と森林伐採”

①黒田洋一氏(JATAN)を交えて～

②総括～“Hutan”より

③参加者と共に語る～

e t c . (予定)

場所：森の宮 市立労働会館

会費：いづれも 500円 です。

連絡先：大阪市北区中崎西1-6-36

「自然をかえせ！関西市民連合」事務所気付

“森と生活を考える会”

TEL. 06-301-0154 (ノバラギ・牛島美成子) 一昼間

TEL. 0727-28-3660 (鈴木 千里) 一夜間

\*PM: 10:00 までお願いします\*